

三浦氏の乱



<三浦一族滅亡 宝治の乱>

強大な勢力になっていた三浦一族は、当時の若い執権・北条時頼にとっては煩い存在であった。北条時頼は三浦泰村を挑発し、挙兵に追い込んで討とうとした。時頼の意を察して動いたのが、時頼の母・松下禅尼の父である有力豪族の安達景盛であった。

宝治元年5月、安達景盛の挑発により三浦氏を窮地に追い詰め、三浦氏が挙兵するのを待った。

謀反気も無い三浦泰村は時頼に使者を派遣して、謀反の意思が無いことを訴えたが、安達景盛は大軍を率いて三浦館へ押し寄せた。

そこで泰村は源頼朝の墓所である法華堂にこもり、一族500余人と共に自害。

× 激戦地